

ねらい

熊に親切にされた狼の変容を通して、意地悪をしたときよりも、親切にしたときの方がずっと気持ちが良いことを理解し、身近にいる人に親切にしようとする心情を育てる。

身に付けさせたいこと

友達に対して親切にするために、自分はどのようなことができるか考える力。

表れてほしい児童の意識(姿)

親切にしてもらった狼の心情に気づき、自分も友達に積極的に親切にしようとする姿。



授業の流れ

○主な発問

☆指導内容

・予想される児童の反応

□評価

1 学習課題を把握する 10分

○みんながしてもらってうれしいことはなんだろう？

- ・きゅうしょくをくばってもらえたとき。
- ・いっしょにあそぼうとさそってもらったとき。

☆価値の方向付けをするために、教師自身の親切にしてもらった経験や子どもたちの親切にしたり、された経験について問いかける。

☆範読をした後に、本時の勉強していく価値を再確認するため、子どもたちに文章の中の狼について問いかける。

2 資料の内容を把握する 20分

○くまにわたしてもらったときのおおかみはどんなきもちだっただろう？

- ・やさしくしてもらおうと、とてもうれしいきもちになるんだな。
- ・うさぎにもいばるんじゃないかと、はしをわたしてあげればよかったな。
- ・なんでもくまはぼくにやさしくしてくれたんだらう。
- ・ぼくもくまみたいにやさしくなりたいな。
- ・こんどうさぎにあつたらいばるんじゃないかとはしをわたしてあげよう。
- ・なんてやさしいんだらう。すごいな。

☆熊に持ち上げて橋を渡してもらった狼の心情が物語の転換点になっていることに気付かせるために、文章の前半と後半にある「えへん、へん」という言葉に着目させ、どのような違いがあるのか考えさせる。

☆プリントの書き方について確認するために、子どもたちの中から代表例を出し、書き方を例示する。

☆多様な意見を考えさせるために、個人で考えた後に、ペアを作って意見を交流させる。その際に、友達の考えは赤鉛筆で書くように促す。

3 価値に触れ、自己の生き方について考える 10分

○みんなはともだちにしんせつにするためにどんなことをしたいですか？

- ・ぷりんとをくばるときにどうぞといってわたしてあげる。
- ・といれのすりっぱをつぎのひとがはくことをかんがえてそろえてあげる。
- ・あそぶときにともだちをさそってあげる。
- ・きゅうしょくのしょっきのかごをかたづけるまえにおいておく。
- ・せんせいのおてつだいをする。

☆発問の内容を捉えることができるようにするために、日々学校内でどんな生活を送っているのか、考える時間をとる。

☆友達の意見に対して賛成なのか、違う意見があるのか示すために、ハンドサインを使って全員が意見交流に参加できるようにする。

4 学習をまとめ、振り返りをする 5分

○しんせつをしたり、されるとどんなきもちになることがわかった？

- ・うれしいきもち。
- ・うきうきしたきもち。

☆友達に対して親切にしていこうとする心情を養うために、親切にしたり、されるとうれしい気持ちになることを再度確認し、これから友達に対してどんなことをしていきたいか問いかける。